

(報道発表資料)

令和7年度
市バス・地下鉄事業予算概要

令和7年2月7日
京都市交通局
担当：企画総務部財務課
TEL：075-863-5080

予算編成方針

●基本方針

「突き抜ける世界都市 京都」の実現に寄与する持続可能で満足度の高い市バス・地下鉄を目指す。

●重要課題への対応

担い手不足への対応～事業運営の根幹を支える担い手の確保に向けて～

「市バス運転士不足 非常事態宣言」を発出（令和6年9月）したとおり、担い手不足により市バスを減便せざるを得ないなか、地下鉄を含めたネットワークを守るため、職員の処遇や職場環境の更なる改善を図ることで、引き続き事業運営を支える担い手の確保に取り組みます。

市バスの混雑対策～市民生活と観光の調和に向けて～

市バスの一部路線・時間帯で生じる混雑への対策を積極的に展開し、観光課題対策に寄与していきます。

●予算の重点項目

重点① 安全・安心の取組

交通事業者として最大の責務である「輸送の安全確保」を徹底し、お客様に安全・安心に御利用いただくための取組を最優先に実施します。

重点② 担い手不足への対応 ※再掲

重点③ 利便性・快適性の向上

お客様により便利で快適に御利用いただくことを目指して、御利用環境の整備やサービス向上の取組を進めていきます。

重点④ 明確な理念に基づく“なりふり構わない経営改善”の取組

厳しい経営状況にある市バス・地下鉄の持続可能な事業運営を目指し、周辺部への誘客をはじめとする利用促進、収入増加、経費削減に取り組み、より一層の経営健全化を推進します。

重点⑤ 社会課題解決への貢献等

子育て支援や事業活動における環境への配慮などSDGsの達成に向けた取組を展開します。

1 令和6年度決算見込と令和7年度予算案

(1) 予算の概要

(令和6年度の決算見込の状況)

- ア お客様の御利用状況は、定期利用（通勤）が回復傾向にあることや円安を背景とした外国人旅行者等の増加による定期外利用（「地下鉄・バス1日券」やICカード利用等）が増加しているものの、年間を通じた全体のお客様数はコロナ禍前の令和元年度との比較において、市バスで▲5.3%、地下鉄で▲0.4%となる見込み
- イ 市バスは、お客様数の回復や、平均乗車単価が他都市並み水準へ改善傾向にあるものの、処遇改善のための人件費や軽油をはじめとする物価の上昇により令和5年度決算より悪化し3億円の黒字を何とか確保できる見通し
- ウ 地下鉄は、バスと組み合わせた移動の促進をはじめ通勤・通学で御利用いただくお客様数が安定的に推移していることや電気料金の落ち着き等もあるものの、処遇改善のための人件費や物価の上昇により令和5年度決算より悪化し15億円の黒字を確保できる見通し

(令和7年度の見通し)

- エ お客様数は、定期・定期外利用は概ねコロナ禍前の水準まで回復しているものの、年間を通じた全体のお客様数はコロナ禍前の令和元年度との比較において、市バスで▲4.0%、地下鉄で+0.8%を見込む
- オ 経常収支は、車両・設備の老朽化対策や処遇改善のための人件費、物価高騰による経常支出の増加により、市バスで▲8億円の赤字を見込む。また、地下鉄では5億円の黒字を見込むものの、引き続き多額に上る企業債を償還していく必要があるなど、両事業とも非常に厳しい経営状況
- カ こうした中でも、地下鉄烏丸線可動式ホーム柵の全駅設置に着手するなど輸送の安全確保を最優先に、本市における観光課題対策にも資する市バスのリアルタイム運行情報（車内混雑度や走行位置等）の発信や地下鉄駅トイレのアップグレードプロジェクトによる受入環境整備をはじめ、デジタル乗車券やクレジットカードによるタッチ決済による市バス・地下鉄の更なるキャッシュレス化に取り組むなど、宿泊税を活用しながら、利便性・快適性の向上策を積極的に展開
- キ 一人でも多くのお客様に御利用いただくため『地下鉄・バス「MOTTO!」利用促進本部』による全庁を挙げた取組として実施する周辺部における利用の促進や駅ナカビジネスの更なる展開など攻めの経営を推進
- ク さらに、電気バスの導入や照明のLED化によるCO2削減、四条駅におけるエレベーター新設によるバリアフリー対策などSDGsの達成や社会課題解決に貢献しながら、持続可能で満足度の高い公営交通を目指す予算として編成

(2) 予算の主要数値

【市バス】

	6年度予算 A	7年度予算 B	増▲減 B-A
在籍車両数	810両	810両	—
走行キロ数 〔1日平均〕	82.0千km	80.9千km	▲1.1千km
経常損益	▲6億円	▲8億円	▲2億円
▲累積欠損金	▲22億円	▲16億円	6億円
資金剰余	8億円	18億円	10億円
年度末企業債 残高	92億円	95億円	3億円

【地下鉄】

	6年度予算 A	7年度予算 B	増▲減 B-A
在籍車両数	222両 〔37編成〕	222両 〔37編成〕	—
走行キロ数 〔1日平均〕	55.4千km	57.0千km	1.6千km
経常損益	▲3億円	5億円	8億円
▲累積欠損金	▲3,120億円	▲3,082億円	38億円
▲累積資金不足	▲477億円	▲504億円	▲27億円
年度末企業債 残高	3,137億円	2,968億円	▲169億円

(3) お客様の御利用状況

【市バス】

(単位：千人/日)

	元年度 A	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度		7年度 予算 C	対前年 増減率		(参考) 元年度比 増減率 (C-A)/A
						予算 B	見込		増減 C-B	(C-B)/B	
市バス	357	248	268	309	333	331	339	343	12	3.6%	▲4.0%
うち定期	96	72	78	87	93	94	96	96	2	2.1%	▲0.1%
うち通勤	72	63	62	68	71	72	74	74	2	3.0%	3.0%
うち通学(大学)	17	5	9	14	16	16	16	16	0	0.0%	▲5.0%
うち定期外	187	99	114	149	175	181	188	192	11	6.1%	2.6%
(参考)											
運賃収入 (億円/税抜)	200	140	152	179	200	199	207	210	11	5.5%	4.9%

【地下鉄】

(単位：千人/日)

	元年度 A	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度		7年度 予算 C	対前年 増減率		(参考) 元年度比 増減率 (C-A)/A
						予算 B	見込		増減 C-B	(C-B)/B	
地下鉄	400	267	295	348	385	385	398	403	18	4.7%	0.8%
うち定期	168	124	139	154	164	165	168	170	5	3.0%	1.2%
うち通勤	109	96	95	102	108	109	112	113	4	4.0%	4.0%
うち通学(大学)	40	15	27	34	38	38	38	38	0	0.0%	▲5.0%
うち定期外	208	119	132	171	201	203	213	216	13	6.4%	3.7%
(参考)											
運賃収入 (億円/税抜)	258	169	186	223	252	250	260	263	13	5.2%	2.2%

2 重要課題への対応

(1) 担い手不足への対応 ～事業運営の根幹を支える担い手の確保に向けて～

「市バス運転士不足 非常事態宣言」を発出（令和6年9月）したとおり、担い手不足により市バスを減便せざるを得ないなか、地下鉄を含めたネットワークを守るため、職員の処遇や職場環境の更なる改善を図ることで、引き続き事業運営を支える担い手の確保に取り組めます。

ア 担い手の確保・育成等

担い手不足の深刻化により御利用状況に応じた減便等を含めた路線・ダイヤの見直しを行うとともに、公営交通を支える担い手の確保・育成に向けた採用活動や研修制度など事業運営の根幹となる体制確保に取り組めます。

① 担い手不足の深刻化による路線・ダイヤの見直し（令和7年3月22日実施予定）

- ・御利用状況に応じた減便・運行区間の短縮なども含めた路線・ダイヤの見直し
- ・民間バス事業者との連携による運行見直し

② 担い手の確保・育成等

- ・就職や転職イベントへの出展等（1,100千円）
- ・SNSでの採用案内の周知や市バス車体への職員募集広告の掲出
- ・採用試験における筆記試験のオンライン受験（SPI3）の導入による受験機会の拡大（3,025千円）
- ・大型二種免許未取得者に対する免許取得費用の支援継続
※令和6年10月以降、免許取得要件（年齢や経験年数）を引き下げる「受験資格特例教習」費用も支給対象に拡充
- ・市バスの運転体験会の開催（180千円）
- ・市バスの運転士の安全意識高揚やモチベーションアップに向けた「運転技能接遇コンテスト」の開催（390千円）
- ・事故防止や接遇向上に向けた階層別研修の実施
- ・資格取得支援制度（京都・観光文化検定等）によるスキルアップの奨励（300千円）

イ 処遇の更なる改善

職員がやりがいを持って安心して働き続けられるよう、給与や勤務時間、休日、健康管理など処遇の更なる改善を進めます。

- ① 職員の給与の増額改定（令和6年12月実施）
- ② 労働条件の改善の検討

ウ 職場環境の改善

性別にかかわらず全ての職員が活躍できる職場づくりに向けた施設改修等に積極的に取り組みます。※は事業費の一部に重点支援地方創生臨時交付金を活用

① 環境改善

市バス営業所、地下鉄保守事務所等における女性用施設の整備、仮眠室・休憩室の改修等（23,753 千円）※

② 熱中症対策

- ・夏期における市バス警戒案内業務用空調服の導入（1,945 千円）
- ・市バス整備職員用スポットクーラーの増備等（990 千円）※

③ カスタマーハラスメント対策

- ・対応マニュアル等の策定
- ・市バス、地下鉄車内や駅改札口における氏名掲出等の見直し
（令和7年1月から実施済み）

エ 「風通しの良い組織風土」の醸成

“小さなズルをしない・させない・許さない”正しいと思うことを安心して闊達に意見交換できる「風通しの良い組織風土」の醸成に向け、組織の綱紀粛正と活性化の両輪における取組を継続的かつ着実に実施します。

(2) 市バスの混雑対策 ～市民生活と観光の調和に向けて～

市バスの一部路線・時間帯で生じる混雑への対策を積極的に展開し、観光課題対策を進めます。

ア 市バス等の「市民優先価格」の実現

全国初のパイロットプロジェクトとなる市バス等の「市民優先価格」について、観光都市であることのメリットを目に見えるかたちで市民に還元し、市民と観光客が共存する機運の醸成に繋げることで、市民生活と観光の調和を目指します。早期の実現に向けて引き続き検討・協議を進めます。

イ 市バス輸送力の効率的な配分等

「市バス運転士不足 非常事態宣言」を発出したとおり、担い手不足の深刻化を踏まえて限りある輸送力を最大限生かしつつ、市バスのリアルタイム運行情報（車内混雑度や走行位置等）の発信や案内の充実による輸送の効率化に取り組みます。

① 観光特急バスの更なる利用促進

- ・令和6年6月の運行開始後の運行状況やお客様の御利用状況についての効果検証を踏まえた運行（運行ダイヤの調整等による利便性向上）
- ・「地下鉄・バス1日券」や「地下鉄とバスを組み合わせた移動への誘導」に係るPR（20,893千円）

多言語でのWEB記事掲載をはじめ、鉄道駅や空港、宿泊施設等におけるリーフレットやデジタルサイネージ等の広告媒体を活用した「旅マエ、旅ナカ」での効果的なPRの実施

② 市バスのリアルタイム運行情報（車内混雑度や走行位置等）の発信

令和10年度における市バスのリアルタイム運行情報の公開に向け、令和7年度には交通局ホームページにおいて市バスの車内混雑度や走行位置等を発信（R6～7年度計614,350千円）

③ バスロケーションシステムの更新（100か所156,904千円）

リアルタイム運行情報の公開に合わせたバスロケーションシステムの機能拡充（車内混雑度やバス到着予定時刻等の発信）に向け、アナログ方式からデジタル方式への切り替えを実施

④ 語学に堪能な学生を中心とした「京都市バス“おもてなしコンシェルジュ”」による案内活動の充実（57,178千円）

京都駅前バスのりばでの案内活動について、桜の開花時期など春の観光シーズンの平日にも拡大するとともに、「清水道」や「五条坂」での活動を拡充

⑤ 京都駅前バスのりばや主要観光地周辺のバス停における整列・誘導を行う案内活動の実施（95,516千円）

ウ 地下鉄をはじめとした鉄道を生かした移動経路の分散

輸送力が大きい地下鉄をはじめとした鉄道を組み合わせた移動経路の分散に向けた取組を引き続き実施します。

- ① 御利用の回復に合わせた朝ラッシュ時間帯や昼間時間帯における地下鉄の増便（令和7年2月22日実施）
 - ・烏丸線における朝ラッシュ時間帯の増便（8時台、1往復）
 - ・新型コロナの影響で減便した昼間時間帯の復便（11～14時台、4往復）
- ② 観光シーズンにおける京都駅に向かうバスから地下鉄への無料振替（5,212千円）「東山三条」「金閣寺道」など
- ③ 「地下鉄・バス1日券」や「地下鉄とバスを組み合わせた移動への誘導」に係るPR（20,893千円） ※再掲
- ④ 春・秋の観光シーズンにおけるJR東海京都駅等での「地下鉄・バス1日券」の臨時販売
- ⑤ 観光での御利用が増加している地下鉄駅への「地下鉄・バス1日券」等のカード乗車券販売機の増設（令和7年3月実施）
 - 丸太町駅、烏丸御池駅、五条駅、京都市役所前駅に1台ずつ設置

3 予算の重点項目

重点① 安全・安心の取組

交通事業者として最大の責務である「輸送の安全確保」を徹底し、お客様に安全・安心に御利用いただくための取組を最優先に実施します。

(1) 輸送の安全確保に向けた取組

【市バス】

- ① 市バス車両の計画的更新（R 7 年度 69 両 1,784,242 千円）
- ② 安全運転訓練車によるセーフティサポート研修
- ③ 外部機関を活用した運転士向け事故防止重点研修、運行管理者向け指導能力向上研修等の実施（5,567 千円）
- ④ 事故多発者に向けた新たな外部機関による研修プログラム(913 千円)
- ⑤ モバイル型アイマークレコーダーの導入による事故発生者向けの新たな研修の実施（3,520 千円）
- ⑥ 安全対策が必要と思われるバス停に係る対策の検討（1,000 千円）
- ⑦ 乗降口のマウントアップ化（歩道のかさ上げ）などバス停におけるバリアフリー改修（3,000 千円）

【地下鉄】

- ① 烏丸線可動式ホーム柵の全駅設置に向けた基本設計（1,419 千円）
 - ・ R 7 基本設計、R 8 実施設計、R 9～12 可動柵の製作、据付け工事等
 - ・ 設置が完了した駅から順次稼働（令和 10 年度中予定）し、令和 12 年度に全駅設置完了予定 ※総事業費約 45 億円
- ② 烏丸線新型車両の導入（2,368,360 千円）
R 7 年度… 2 編成導入（全 9 編成の更新が完了）
- ③ 車内防犯カメラの設置（32,614 千円）
新型車両に加え、カメラが搭載されていない既存車両にも順次設置
 - ・ 烏丸線…新型車両 R 7 年度 2 編成（累計 9 編成）
既存車両 R 7 年度 2 編成（累計 3 編成）
 - ・ 東西線…R 7 年度 4 編成（累計 5 編成）
- ④ 駅係員や乗務員に対する故障や異常時対応等を想定した定期教育訓練の実施

【両事業共通】

- ① 車内放送等による啓発や警察・大学等と連携した痴漢対策など犯罪防止に向けた取組の実施

(2) 災害対策の強化

【地下鉄】

- ① 止水板設置等による浸水対策の実施（6,699 千円）※R7設計、R8工事
・北山駅、今出川駅、烏丸御池駅、四条駅、姉小路変電所、
勧進橋変電所、柳馬場中間換気所に設置

【両事業共通】

- ① 警察・消防など関係機関との連携による火災やテロ対策を想定した合同訓練の実施

重点② 担い手不足への対応

「市バス運転士不足 非常事態宣言」を発出（令和6年9月）したとおり、担い手不足により市バスを減便せざるを得ないなか、地下鉄を含めたネットワークを守るため、職員の処遇や職場環境の更なる改善を図ることで、引き続き事業運営を支える担い手の確保に取り組めます。

（再掲）4～5 ページ参照

重点③ 利便性・快適性の向上

お客様により便利で快適に御利用いただくことを目指して、御利用環境の整備やサービス向上の取組を進めていきます。

【市バス】

- ① バス待ち環境向上の取組
 - ・バス停上屋の新設及び老朽化した上屋の更新（28,349 千円）
 - ・バス停標識柱の更新等による美装化や照明のLED化（23,055 千円）
 - ・ベンチの新設、更新（2,900 千円）
- ② 市バスのリアルタイム運行情報（車内混雑度や走行位置等）の発信※再掲
令和10年度における市バスのリアルタイム運行情報の公開に向け、令和7年度には交通局ホームページにおいて市バスの車内混雑度や走行位置等を発信（R6～7年度計614,350 千円）
- ③ バスロケーションシステムの更新（100 か所 156,904 千円）※再掲
リアルタイム運行情報の公開に合わせたバスロケーションシステムの機能拡充（車内混雑度やバス到着予定時刻等の発信）に向け、アナログ方式からデジタル方式への切り替えを実施
※デジタル方式への切り替えにより英語表記や迂回・運休情報の発信など案内を充実
- ④ 暑熱対策の取組
夏期におけるミスト装置の稼働（7,527 千円）

【地下鉄】

- ① 御利用の回復に合わせた朝ラッシュ時間帯や昼間時間帯における地下鉄の増便（令和7年2月22日実施）※再掲
 - ・烏丸線における朝ラッシュ時間帯の増便（8時台、1往復）
 - ・新型コロナの影響で減便した昼間時間帯の復便（11～14時台、4往復）
- ② 地下鉄四条駅の阪急連絡通路へのエレベーター新設によるバリアフリー対策（R7～8年度計73,150 千円）
これまで設置を断念していたエレベーターについて構造等を見直すことにより実現
- ③ 地下鉄駅トイレのアップグレードプロジェクト
地下鉄駅トイレについて、御利用者数や観光地アクセスを考慮し、女性用トイレを中心にパウダーコーナーを設置するなどの「トイレの美装化」や「温水洗浄便座の設置」、洋式化などの「バリアフリー化」のアップグレードを戦略的に実施（R7年度15,500 千円）
 - ・四条駅地下2階（R7年度設計、R8年度工事）
 - ・東山駅（R7～8年度設計、R9年度工事）
 - ・山科駅、蹴上駅、今出川駅、北大路駅（R7年度、温水洗浄便座設置のみ）

- ④ 駅トイレにおける特別清掃の実施（6,600 千円）
御利用が特に多い烏丸御池駅、四条駅、京都駅の3駅において、
2か月に1回、特別清掃を実施
- ⑤ 駅トイレにおける便座クリーナーの設置（3,124 千円）
- ⑥ 暑熱対策の取組
昨今の気象状況を踏まえ、駅構内の冷房稼働期間を6月中旬から10
月中旬まで1か月延長するとともに、各駅の稼働時間についても拡大
（155,100 千円）
- ⑦ 竹田駅改札口への列車案内表示器の新設（R7～8年度計21,450 千円）
相互乗り入れを行っている近鉄電車における列車案内表示器の更
新・整備計画に合わせ新たに設置

【両事業共通】

- ① 市バス・地下鉄におけるキャッシュレス化の更なる推進
（R7～9年度計市バス961,882 千円 地下鉄793,700 千円）
スマートフォンで乗車券の選択、決済、利用が可能となるデジタル
乗車券やクレジットカードによるタッチ決済の導入に着手【宿泊税充当
予定事業】
- ② IC化の更なる向上
 - ・バス-地下鉄-他社線の連絡IC定期券の発売
定期券1枚でバス-地下鉄-他社線（近鉄、京阪電車、JR西日本、
阪急電鉄）に乗車可能なICOCAによる連絡定期券の発売

「meet us（ミータス）山科-醍醐」の推進

- ・京阪バスとの連携による利用促進等
- ・コトチカ（山科駅）における魅力的な店舗の出店
- ・駅構内でのワゴン販売の展開
- ・周辺部への誘客キャンペーンの実施

洛西“SAIKO”プロジェクトの推進

- ・ヤサカバスとの市バスIC定期券の共通利用化
- ・市バスIC定期券「桂地域フリー」の発売
- ・中高生、小学生等向け市バスIC通学フリー定期券の発売
- ・定期券発売所の洛西営業所内からJR桂川駅前への移設
- ・「洛西SAIKO!MOTTOおでかけ割」
保護者同伴における小児運賃（2人まで）を無料とする桂・洛西
地域限定キャンペーンの実施（令和7年春実施）
- ・周辺部への誘客キャンペーンの実施

重点④ 明確な理念に基づく“なりふり構わない経営改善”の取組

厳しい経営状況にある市バス・地下鉄の持続可能な事業運営を目指し、周辺部への誘客をはじめとする利用促進、収入増加、経費削減に取り組み、より一層の経営健全化を推進します。

(1) 利用促進・収入増加策

【両事業共通】

- ① 一人でも多くのお客様に御利用いただくための利用促進活動の展開
 - ・『地下鉄・バス「MOTTO!」利用促進本部会議』による全庁体制での「市バスの赤字系統の利用促進」及び「地下鉄とバスを組み合わせた移動への誘導」に向けた取組の推進
 - ・定期券の利用促進に向けた大学・経済団体等に対する営業活動
 - ・「地下鉄・バス1日券」の販売強化や「観光特急バス」の利用促進
 - ・周辺部への誘客キャンペーンの実施
 - ・「meet us（ミータス）山科-醍醐」の推進 ※再掲
 - ・洛西“SAIKO”プロジェクトの推進 ※再掲
- ② 駅ナカビジネスの増収策
小規模スペースを有効活用したワゴン販売や自動販売機の増設等
- ③ 広告料収入をはじめとしたあらゆる増収策の実施
 - ・デジタルサイネージ等、クライアントニーズの高い広告媒体の増設やクライアントニーズを踏まえた販売の促進
 - ・まちピンチキャラクターのLINEスタンプの販売
 - ・ふるさと納税制度による寄付や交通局の返礼品での資金調達
(返礼品の例) 地下鉄の運転体験会の実施、「地下鉄・バス1日券」

(2) 経費削減策 ※両事業で約1億円の経費削減効果を見込む

【市バス】

- ① リース方式でのバス車両の調達による企業債償還負担の軽減
R7年度2両追加（累計12両）
- ② 全自動フロンガス回収再生装置の導入による市バス車両のエアコン修理費用の削減

【地下鉄】

- ① 駅職員業務の契約更新に合わせた有人改札業務のリモート化の拡大
 - ・R7年度…京都市役所前駅
 - ・R8年度…北山駅、鞍馬口駅、丸太町駅、五条駅、十条駅、くいな橋駅

- ② 改集札機のＩＣ専用機導入等による保守管理費用や設置台数等の見直し
竹田駅更新台数の見直し（北・南改札について１台ずつ削減）
- ③ 車両や設備更新による電力使用量の削減
 - ・烏丸線新型車両導入（２編成）
 - ・エレベーター更新（国際会館駅、鞍馬口駅）
※丸太町駅、京都市役所前駅、二条駅についてもＲ７～８で実施
 - ・トンネル、駅舎等照明のＬＥＤ化（ＣＯ２削減量 約 365t）
（醍醐～御陵間、御陵駅、小野駅、東山駅、醍醐車庫等）
※六地蔵駅、石田駅についてもＲ７～８で実施

【両事業共通】

- ① 庁舎などのＬＥＤ化による電力使用量の削減（ＣＯ２削減量 約 28t）
交通局本庁舎、操車場、自動車整備工場等
- ② 交通局太秦天神川案内所における営業時間の短縮（現行の 12 時間から
8 時間に短縮）

（３） 経営状況の見える化

交通局ホームページやＳＮＳによる情報発信など、様々な媒体を通じて
市民やお客様に交通局の経営状況等を正しくお伝えします。

【取組事例】

- ・交通局ホームページ等におけるまちピンチキャラクターによる経営状況の発信等
- ・広告の空き枠（バス車両の外側看板や駅の電照広告）を活用した経営状況等の発信強化

（４） 国の支援制度の活用や国・府への要望活動の実施等

担い手不足をはじめ原油や物価高騰に対する支援、地下鉄事業における
バリアフリー対策や浸水対策等に係る国庫補助制度の継続・拡充等につい
て、様々な観点からの支援を引き続き国や府に対し要望します。

重点⑤ 社会課題解決への貢献等

子育て支援や事業活動における環境への配慮などSDGsの達成に向けた取組を展開します。

【市バス】

- ① 電気バスの導入（2両）によるCO₂排出量の削減等
- ② バス停標識柱や建物照明のLED化による電力使用量の削減※再掲

【地下鉄】

- ① 車両や設備更新による電力使用量の削減 ※再掲
 - ・烏丸線新型車両導入（2編成）
 - ・エレベーター更新（国際会館駅、鞍馬口駅）
※丸太町駅、京都市役所前駅、二条駅についてもR7～8で実施
 - ・トンネル、駅舎等照明のLED化（CO₂削減量 約365t）
（醍醐～御陵間、御陵駅、小野駅、東山駅、醍醐車庫等）
※六地藏駅、石田駅についてもR7～8で実施
- ② 地下鉄駅構内への授乳スペースの設置拡大（4,827千円）
R7年度…国際会館駅、北山駅、烏丸御池駅、蹴上駅に設置拡大
- ③ 地下鉄駅トイレにおける生理用品の無料提供サービスの継続
- ④ 地下鉄四条駅の阪急連絡通路へのエレベーター新設によるバリアフリー対策 ※再掲
これまで設置を断念していたエレベーターについて構造等を見直すことにより実現
- ⑤ 温水洗浄便座の計画的設置（7,500千円） ※再掲

【両事業共通】

- ① 庁舎などのLED化による電力使用量の削減（CO₂削減量 約28t）
交通局本庁舎、操車場、自動車整備工場等 ※再掲
- ② 定期券等の券面の性別表示を削除
- ③ 心のバリアフリーの推進
公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団が、交通事業者向けに実施している所定の研修課程を修了した者に認定する「交通サポートマネージャー」の養成（720千円）
- ④ SDGs達成への貢献に係る情報発信
様々な媒体を活用した市バス・地下鉄の事業活動を通じたSDGs達成への貢献に係る情報発信



広報物等でのSDGs啓発ロゴ

⑤ 文化芸術振興

- ・烏丸線新型車両における伝統産業素材・技法の活用
- ・駅ナカアートプロジェクトの実施（3,675千円）
- ・京都マンガアニメフェア（京まふ）開催期間中のアニメ列車の運行によるPR及びイベントブースへの出展
- ・市内で開催される各種文化、芸術イベントとの連携

～照明のLED化について～

水銀を規制する国際的な条約（水銀に関する水俣条約）の締約国会議において、蛍光灯の製造と輸出入がその種類に応じて、令和9年（2027年末）までに禁止することが合意され、大手のメーカーから蛍光灯照明器具等の製造中止や生産終了が公表されています。

交通局では、これまでから省エネの観点も踏まえ、照明器具の更新時期にあわせて、計画的にLED化を進めています。

4 市バス・地下鉄の財政状況

【市バス】

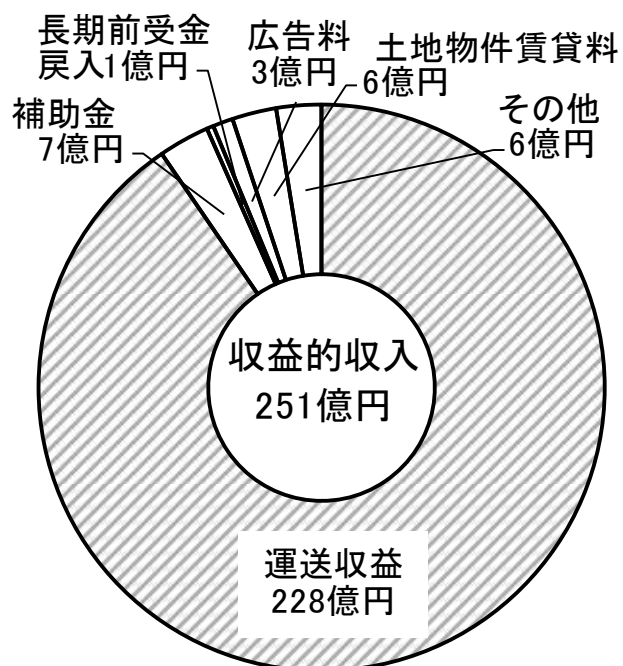
(税込額)

区 分		R7年度予算(A)		R6年度予算(B)		差引増▲減(A－B)	
		億	百万円	億	百万円	億	百万円
収益的収支	営 業 収 益	237	47	225	95	11	52
	うち運 送 収 益	227	71	215	76	11	95
	営 業 外 収 益	13	26	12	04	1	22
	うち一般会計補助金	7	31	6	22	1	09
	収 入 計	250	73	237	99	12	74
	営 業 費 用	247	66	234	03	13	63
	うち人 件 費	104	66	95	33	9	33
	うち経費(燃料費・修繕費等)	123	59	120	82	2	77
	うち減価償却費等	19	41	17	88	1	53
	営 業 外 費 用	8	28	7	42		86
	支 出 計	255	94	241	45	14	49
	経 常 損 益	▲ 7	95	▲ 5	53	▲ 2	42
純	損 益	▲ 7	95	▲ 5	53	▲ 2	42
▲	累 積 欠 損 金	▲ 15	73	▲ 21	63	5	90
資本的収支	収 入	31	07	23	71	7	36
	うち企 業 債	25	04	23	12	1	92
	うち補 助 金	5	56		11	5	45
	支 出	52	27	38	41	13	86
	うち建 設 改 良 費	30	62	23	25	7	37
	うち企 業 債 償 還 金	21	15	14	66	6	49
	差 引	▲ 21	20	▲ 14	70	▲ 6	50
資	金 剰 余	18	20	8	38	9	82
年 度 末	企 業 債 残 高	94	83	91	55	3	28

※経常損益、純損益及び累積欠損金は税抜額であり、経常損益は収益的収入と支出の差とは一致しない。

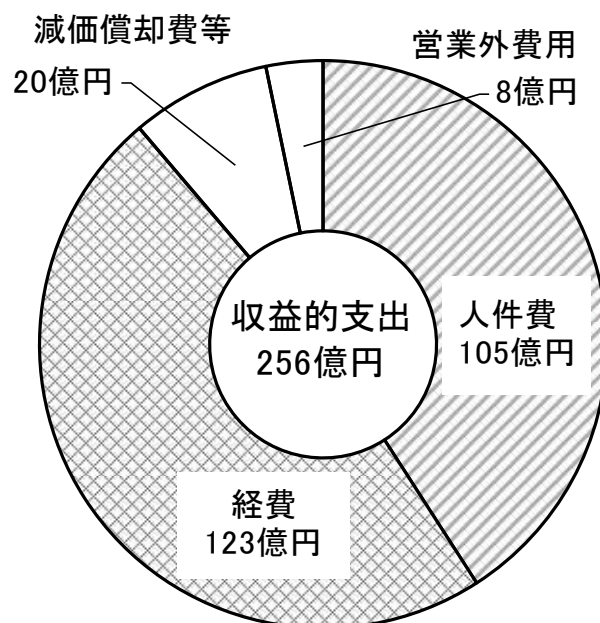
(収入・支出の内訳)

【収益的収支】

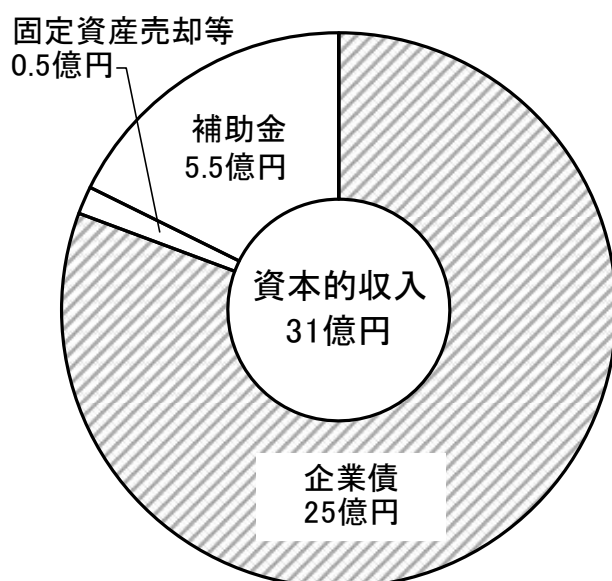


【補助金内訳(収益)】

市補助	7.0億円
府補助	0.1億円

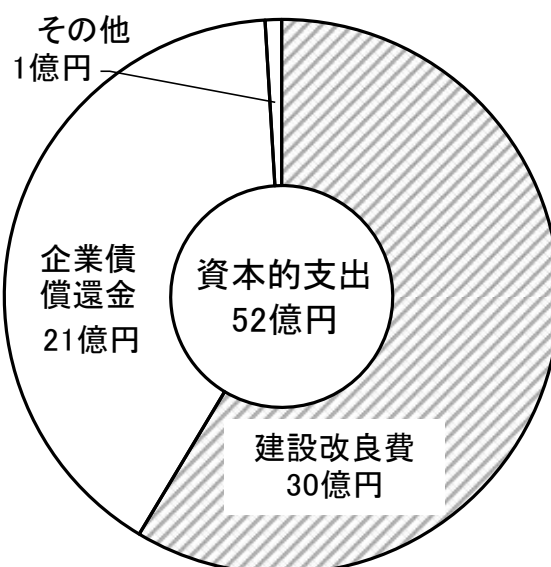


【資本的収支】



【補助金内訳(資本)】

市補助	5.5億円
-----	-------



【地下鉄】

(税込額)

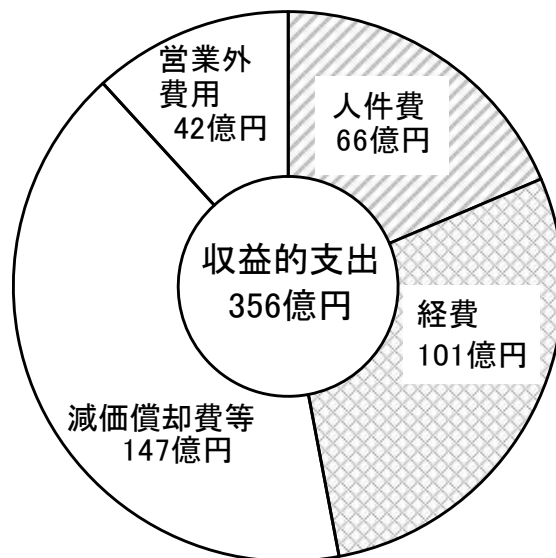
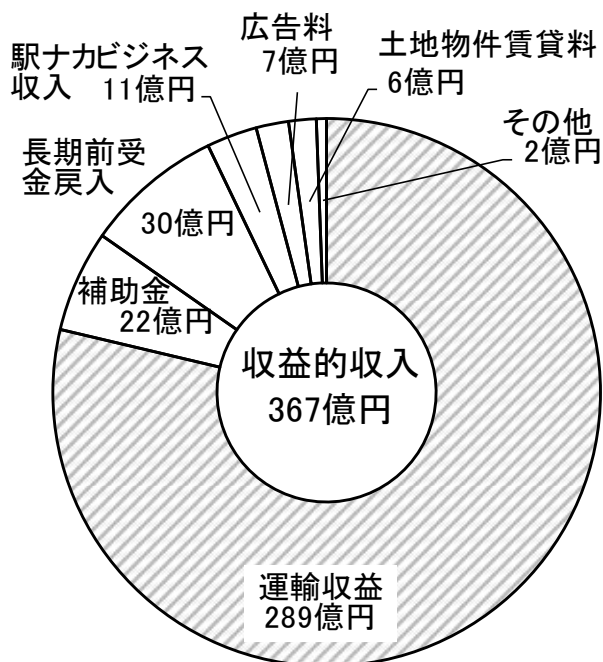
区 分		R7年度予算(A)		R6年度予算(B)		差引増▲減(A-B)	
		億	百万円	億	百万円	億	百万円
収益的収支	営 業 収 益	314	67	300	24	14	43
	うち 運 輸 収 益	288	67	274	23	14	44
	営 業 外 収 益	52	27	52	81	▲	54
	うち 一 般 会 計 補 助 金	22	41	23	15	▲	74
	収 入 計	366	94	353	05	13	89
	営 業 費 用	314	05	307	33	6	72
	うち 人 件 費	66	23	66	17		06
	うち 経費(動力費・修繕費等)	101	20	95	20	6	00
	うち 減 価 償 却 費 等	146	62	145	96		66
	営 業 外 費 用	41	88	42	69	▲	81
	支 出 計	355	93	350	02	5	91
	経 常 損 益	5	22	▲ 3	36	8	58
	現 金 収 支 (償 却 前 損 益)	119	75	110	05	9	70
▲ 累 積 欠 損 金		▲ 3,082	05	▲ 3,120	03	37	98
資本的収支	収 入	221	38	187	43	33	95
	うち 企 業 債	178	74	163	94	14	80
	うち 補 助 金	28	88	8	91	19	97
	うち 出 資 金	12	75	14	06	▲ 1	31
	支 出	413	56	363	46	50	10
	うち 建 設 改 良 費	64	75	70	85	▲ 6	10
	うち 企 業 債 償 還 金	347	81	291	61	56	20
差 引		▲ 192	18	▲ 176	03	▲ 16	15
▲ 累 積 資 金 不 足		▲ 504	18	▲ 477	22	▲ 26	96
年 度 末 企 業 債 残 高		2,968	00	3,137	41	▲ 169	41

※経常損益、現金収支、純損益及び累積欠損金は税抜額であり、経常損益は収益的収入と支出の差とは一致しない。

※R6年度予算同様、R7年度予算では、財政健全化法における資金不足額は生じない。

(収入・支出の内訳)

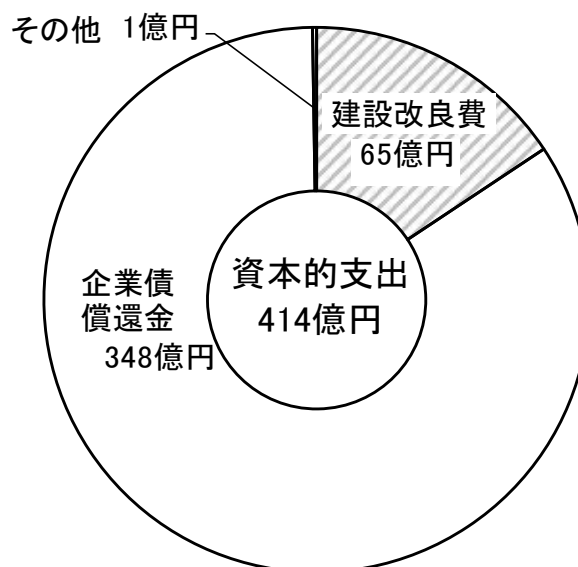
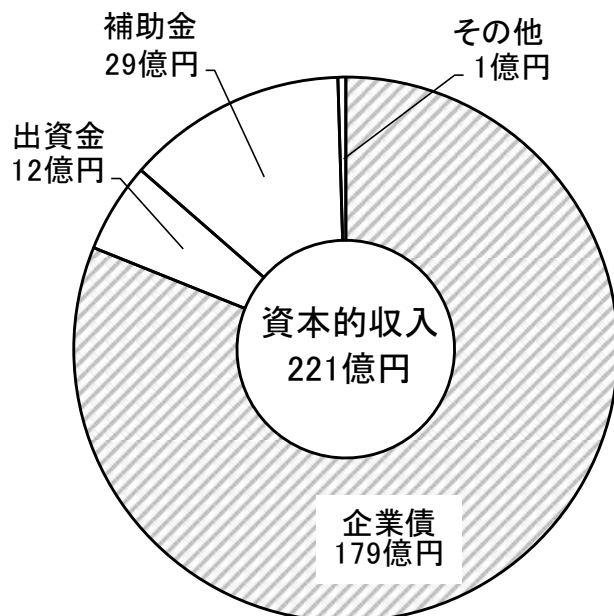
【収益的収支】



【補助金内訳(収益)】

国補助	-
府補助	0.1億円
市補助	22.4億円

【資本的収支】



【補助金内訳(資本)】

国補助	0.1億円
府補助	2.5億円
市補助	26.3億円

(参考) 令和7年度予算における宿泊税充当事業一覧

観光課題対策に資する市バスの混雑対策や受入環境整備事業等に総額で約2.4億円(市バス約1.9億円、地下鉄約0.5億円)を活用します。

(単位:千円、税込)

		7年度 予算	市バス	地下鉄
混雑対策・受入環境整備事業【宿泊税充当事業】		973,880	870,020	103,860
		242,000	189,000	53,000
収 益 的 収 入	バスロケーションシステムの更新(◎)	2,904	2,904	—
		500	500	—
	京都市バス“おもてなしコンシェルジュ”の活動充実	57,178	57,178	—
		28,633	28,633	—
	地下鉄駅へのベビーケアルームの設置	4,827	—	4,827
		2,500	—	2,500
	地下鉄烏丸線可動式ホーム柵設置	1,144	—	1,144
		590	—	590
	地下鉄駅トイレのアップグレードプロジェクト	1,000	—	1,000
		500	—	500
	地下鉄駅トイレにおける便座クリーナーの設置	3,124	—	3,124
		1,600	—	1,600
	地下鉄をより快適に御利用いただくための駅トイレ清掃の充実	6,600	—	6,600
		3,300	—	3,300
	京都への修学旅行の誘致促進	54,370	36,247	18,123
		27,185	18,124	9,061
	ドライ型ミスト装置による涼しさのおもてなしを通じたバス待ち環境の向上	7,368	7,368	—
		3,684	3,684	—
	市バス停留所における乗降口のバリアフリー改修	3,000	3,000	—
		1,500	1,500	—
	主要バスのりばにおける分かりやすい案内表示への修正	6,646	6,646	—
		3,323	3,323	—
	四条河原町(西行)バス停における車外での運賃収受によるバスの停車時間短縮	5,440	5,440	—
		2,720	2,720	—
	市バスにおける4か国語コミュニケーションボードの修正	208	208	—
		104	104	—
	無電柱化事業に係るバス停改修等	1,571	1,571	—
		786	786	—
	どなたにも快適に御利用いただけるトイレの清掃・維持管理	7,162	917	6,245
		3,581	459	3,122
	地下鉄駅構内におけるライン(整列・誘導)の更新による安全・安心な利用環境の整備	1,022	—	1,022
		511	—	511
	観光地周辺のバス停における案内や整列・誘導による混雑対策	61,789	61,789	—
		30,895	30,895	—
	京都駅前バスターミナルのりば案内	36,121	36,121	—
		18,061	18,061	—
	市バスから地下鉄への無料乗継による車内混雑、渋滞対策	5,212	5,212	—
		2,606	2,606	—
	地下鉄・市バスを組み合わせた利用促進	29,778	13,102	16,676
		14,889	6,551	8,338
	空港・宿泊施設における増収増客に向けた取組	21,116	9,291	11,825
		10,558	4,646	5,912
	観光特急バスの運行による混雑緩和	440	440	—
		220	220	—
	混雑緩和に向けたバスの増車(9両)等(端数調整分を含む) ※令和6年6月新ダイヤに向けた増車に係る利子償還分	6,404	6,404	—
		3,542	3,542	—
	小計	324,424	253,838	70,586
		161,788	126,354	35,434

資 本 的 収 入	市バスのリアルタイム運行情報（車内混雑度や走行位置等）の発信（◎）	446,490	446,490	—
		40,800	40,800	—
	バスロケーションシステムの更新（◎）	154,000	154,000	—
		14,000	14,000	—
	地下鉄駅トイレのアップグレードプロジェクト	11,600	—	11,600
		5,800	—	5,800
	地下鉄四条駅の阪急連絡通路へのエレベーター新設	4,400	—	4,400
		2,200	—	2,200
	地下鉄烏丸線可動式ホーム柵設置	220	—	220
		110	—	110
	ドライ型ミスト装置による涼しさのおもてなしを通じたバス待ち環境の向上	1,896	1,896	—
		948	948	—
	バス待ち環境の向上（バス停上屋の新設等）	13,796	13,796	—
		6,898	6,898	—
	地下鉄車内防犯カメラの既存車両設置等（端数調整分を含む）	17,054	—	17,054
		9,456	—	9,456
	小計	649,456	616,182	33,274
		80,212	62,646	17,566

- ・表中の金額のうち上段は経費、下段は宿泊税充当額を示します。
- ・表中の◎は宿泊税と併用し「デジタル活用推進事業債（仮称）」（地方債充当率 90%、交付税措置率 50%）を活用した一般会計補助金の繰り入れを想定している事業であることを示します。